

# 那加三だより

那加第三小学校  
学校だより  
H31. 2. 22

学校の教育目標 「力いっぱい やりぬく子」  
「活動の様子」をHPからもご覧ください！ HPアドレス <http://edu-kakamigahara.com/naka3sho/>

## ボランティアについて考える

(校長室より)

本校では、那加三小や那加三小校区に愛着をもち、学校や地域のためにがんばろうとする子どもが育つようと「あいさつ」と「ボランティア」を大切にしています。とくに「ボランティア」については市をあげて推奨している『ボランティア手帳』を積極的に活用して啓発をしています。

日本が災害の多い国だからでしょうか、ボランティアへの注目度は増してきています。阪神大震災が起きた平成7年が「ボランティア元年」と言われ、東日本大震災、熊本地震、広島土砂災害等が起きるたびに、ボランティアに参加する年齢層も広がってきています。去年は、行方不明になった男児の捜索活動に参加し見事に発見した尾畠春夫さんが、スーパーボランティアとして有名になりました。

この「ボランティア」について、以下のような意見を目にしました。

- ・ボランティア活動を卒業の単位として認める大学や高等学校があるようだが、もともとボランティアは見返りを求めることではないはず。この制度はおかしいのではないか。（新聞の投稿より）

- ・子どもが取り組むボランティアが家庭でのお手伝いの域を脱していない。学校のために、あるいは地域のために何かをする活動へと方向付けができないものか。（保護者の学校評価より）

どちらも納得できる意見です。ボランティアはもともとその人の意思で行われる活動であり、誰かから指示されたり命令されたりして行うことではありません。ボランティアは仕事ではないからです。大切なのは、自分から「やりたい」自分が「やってみよう」という気持ちだと思います。

でも、誰かから頼まれて仕方なく始めることもあるかもしれません。それでも、誰かの役に立ったという自己肯定感は大切にしたいですし、もしそれが自分の意志で続けていこうとすることにつながればそれはとても素敵なボランティアの心が育ったことになると思います。

金品等の見返りを求めないのがボランティア活動です。ボランティアをしたことへの報酬は、自分の心が満ちることと、そして時には人との関わりを得られることだと思います。

「何かしなければ」「何かをしたい」という優しさや思いやりから、周囲の人や自然や環境のために役立つことをすることは、自分自身を向上させることにつながります。その始めの一步は、手伝いであり係や委員会の仕事を誠実に行うことなのかもしれません。

学校や、家庭や、地域や、さらに社会のために「自分から何かをしよう」と行動できる人を育てることが究極の目標です。学年の段階に応じて、役立つことの素晴らしさを感じさせられるような指導を工夫していきたいと思っています。



6年生の進路学習（生き方講座）も最終回を迎え、講師として、元宝塚歌劇団宙組101期生の驚世耀（さぎせよう）さんにお越しいただきました。宝塚という華やかな芸能界を歩んで来られましたが、練習だけでなく礼儀等の人のかかわりでも、本当に厳しい世界であったことを話していただきました。



1年生が、来年度入学予定の年長児を迎えて交流会を開催しました。自分たちが練習してきた昔の遊びを紹介し、「おたがいのなまえをおぼえてなかよくあそぼう」をめあてに一緒に遊びました。けん玉、こま、あやとり等、いろいろな遊びに挑戦する年長児に、お兄さんお姉さんとしてやさしく教えました。



前号でも紹介しましたが、3年生は、67年前に本校最初の1年生であった長縄さんからお話を聞く機会をもちました。1学級は40人以上だったこと、入学当時から給食があったこと、修学旅行は自分の分のお米を持参して京都・奈良へ出かけたことなど、大先輩のお話を興味深く聞きました。